

茨城大学学報

第284号

平成21年4月～平成21年5月



人文学部講義棟まえでくつろぐ学生たち

INDEX

- ◆平成21年度茨城大学入学式
- ◆新歓祭を開催しました
- ◆永井路子先生から歴史資料の寄贈
- ◆茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ2009を開催
- ◆正門前に路線バスが乗り入れ
- ◆「水戸の城下町マップ」の完成報告会
- ◆卒業生が講演会で後輩に就職指南
- ◆「大学憲章」の制定と60周年記念シンポジウムの開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 平成 21 年度茨城大学入学式

茨城大学平成 21 年度入学式は、4 月 8 日県武道館において、大勢の保護者および学内関係者らの参列の中、挙行されました。

入学生紹介及び各学部等総代の宣誓書提出に続き、池田学長から各学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計 2, 250 名の入学が許可されました。更に、入学生総代、人文学部の本間琢暁（ほんまたかあき）さんより宣誓がありました。

◇ 平成 21 年度入学式学長式辞



茨城大学長 池田幸雄

茨城大学の新入生の皆さん、ご入学おめでとう御座います。茨城大学を代表して、心からお祝いを申し上げます。本日、平成 21 年度の入学式を挙行し、皆さんを茨城大学にお迎えできました事、私達教職員一同は大変喜んでおります。また、ご両親

を始め、ご家族ご親類の皆様にも、謹んでお祝いを申し上げます。

茨城大学は、今年 5 月末に、創立 60 周年を迎えます。記念行事として、「茨城大学憲章の制定」と「地域貢献シンポジウムの開催」を予定しております。大学憲章は、茨城大学の全教職員と学生達の知恵を結集して策定したものでありまして、茨城大学の有るべき姿を描き、茨城大学の行くべき方向を照らしたもので御座います。新入生の皆さんには、是非、一度、読んで頂きたいと思っております。また、地域貢献シンポジウムは、茨城大学の重要な課題であります「地域振興・社会貢献」をテーマとして、茨城大学の今後の活動方針を語り合う大事なシンポジウムで御座います。新入生の皆さんにも、是非、興味を持って貰いたいと思っております。

さて、最近では、新入生の学力や学習意欲が低下していると云われております。私も新入生の学力が年々低下の傾向にあると感じておりますが、学力低下はそれほど深刻であるとは思っておりません。学力が低ければ、茨城大学で学力を付ければ充分です。私が深刻であると思っておりますのは、新入生の学習意欲の低下です。授業を受ける場合、何故自分がこの授業を受けるのかを理解しないまま、受講する学生が増えているようです。この授業なら簡単に単位が貰えるので受講するとか、大学を卒業するには 124 単位が必要なので、止むを

得ず授業に出ざるを得ないとか云う学生が多くなっています。このような学生は学習意欲が乏しく、授業中に居眠りをしたり、ひそひそ話をしたりするのが特徴です。これでは、皆さんが苦勞して大学に入った甲斐がありません。皆さんは大学に入学したのは、勉強するためではありませんか。皆さんには、是非、強い学習意欲を持って頂きたいと思います。しかしながら、「学習意欲の希薄な学生に強い学習意欲を持て」と云っても空回りするだけで、学習意欲などなかなか出て参りません。そこで皆さんに学習意欲を引き出す簡単な秘訣を教えて差し上げたいと思います。その秘訣とは、皆さんが「素朴な疑問」を感じる様になる事です。要するに、皆さんが、身の周りの色々な事柄について、何故だろうと「素朴な疑問」を感じるだけで良いのです。では、素朴な疑問とは何でしょうか？ここで、皆さんに「いくつかの素朴な質問」を試してみたいと思います。よろしいでしょうか？

始めの質問です。「なぜ、空は青いのでしょうか？」。あまりにも当たり前なので、皆さんは考えたことも無いのではないのでしょうか。ちなみに申しますと、月の空は眞昼でも眞っ暗ですし、火星の空はピンク色です。しかし、地球では青です。何故でしょうか？



私は答えを申しませないので、皆さんは自分で考えるか、又は授業などで学習して下さい。

2番目の質問です。1年のカレンダーは1月1日から始まりますが、「この1月1日はどのようにして決めるのでしょうか？」

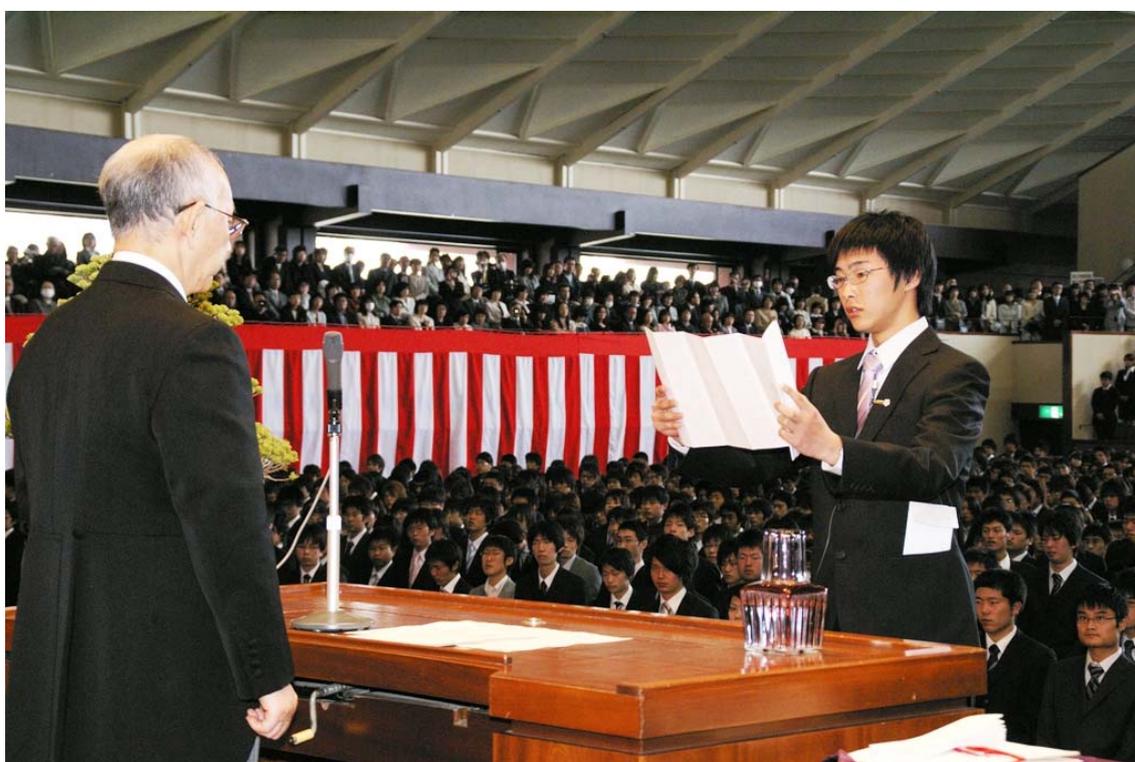
皆さんは、カレンダーに従い、1月1日になると「おめでとう御座います」と挨拶しますが、その日に何か特別な意味があるのでしょうか？是非、皆さん自分で調べてみて下さい。

3番目の質問です。「人間には、男と女がありますが、何故でしょうか？」

ちなみに申しますと、100年以上前にイギリスの作家 H. G. Wells が書いた「宇宙戦争」と云う SF 小説に「火星」が出てきます。この火星には男と女の区別がありません。最近地球でも良く知られている「クローン牛」のように、H. G. Wells の火星人は、体の一部の細胞が増殖し分離して子供が生まれますので、男と女の区別がいりません。何故、地球人には男女の区別が必要なのでしょうか？これも授業などで学習して下さい。

以上の如く、私は、今、分りきった事実について皆さんに素朴な質問を致しました。しかし、その理由は必ずしも多くの人に正しく理解されている訳ではありません。このように、私達の身の回りには、多くの「謎」が存在しますが、あまりにも「あたりまえ」なので、私達は疑問を感じなくなっています。かの有名なアイザック・ニュートンは「リンゴが木から地面に落ちる」のを見て「万有引力の法則」を考えたと言う比喩的な逸話があります。この逸話は、「リンゴが下に落ちると言う当たり前の事実」に素朴な疑問を感じたニュートンは大変素晴らしい」と言う事を伝えています。

そこで、皆さんにお願いがあります。新入生の皆さんには、1年生のうちに、身の周りの「謎」に「素朴な疑問」を感じて欲しいのです。一旦、疑問を感じると、頭にこびり付いて夜も眠れなくなります。この疑問に答えて呉れるのが、学問です。努力して勉強し、これらの「謎」が解けた時、何とも云えない爽快感や充実感が全身に充ち溢れて、楽しい気分になります。要するに、学問とは本来「大変楽しいもの」なのです。この学問の爽快感を是非皆さんに楽しんで欲しいと思います。こうなれば、あなた方の学習意欲は自ずと開花し、さらに難しい内容に踏み込める様になります。あなた方は、「何故、苦勞してまで大学に入学したのか」をはっきりと自覚する事になるでしょう。今までとは違った「新しい自分自身」を茨城大学で是非発見してほしいと思います。



もう1つ、新入生の皆さんにお願いしたい事があります。あなた方が茨城大学に在学している間に多くの友達を作ってほしいと思います。友達が多ければ多いほど、大学生活が楽しくなるでしょう。あなた方が大学を卒業して社会人になると、仕事仲間は出来ますが、友達を作るのは意外と難しくなります。茨城大学の在学中が友達を作るチャンスです。友達は生涯の宝です。あなた方の周りには、その宝が沢山あります。しかし、あなたが黙っていたのでは友達はできません。あなた自身が誠意を持って人に接する事が重要です。今までは、あなた方のご両親などがあなた方の面倒を見て呉れていましたが、大学生になると、親元を離れる場合が多く、一人立した生活になります。その時、一人立した学生同士が友達になって、互いに助け合い協力する事が重要です。さらに、友達と共に学び、共に遊べば、大学生活は何倍にも豊になります。

人生において、大学生の時代が、最も自由で、しかも実り多き時代です。大学生になれば、1人前の大人になったと看做されます。大人になれば、自由に行動できますが、同時に責務も伴います。大学では、あなた方の自主性を尊重致しますが、社会では倫理的責任を全うする事があなた方に求められます。自分自身で物事を決定し、他人に迷惑を掛けないよう十分な配慮をしながら、行動しなければなりません。この事を強く自覚して頂きたいと思います。一方、あなた方の実家では、あなた方をまだまだ半人前だと思っているでしょう。実家で半人前に扱われると云う事は、実家がある程度面倒を見て呉れると云う証であり、あなた方にとって大変有難い事です。したがって、あなた方は実家を頼りとするのは勿論の事、常に実家と連絡を取り、人生経験をお持ちのご両親等の意見を十分に聞くべきです。この事を良く認識しつつ、大人である事を深く自覚して、茨城大学での大学生活を十分に楽しんで頂きたいと思います。

最後に、新入生の皆さんのご入学を歓迎し、これからの皆さんの健康と活躍を心から祝って式辞と致します。今日は本当におめでとう御座いました。



◆ 新歓祭を開催しました

平成 21 年 4 月 11 日（土）、水戸キャンパスにおいて平成 21 年度新歓祭が開催されました。新歓祭は、学友会が主催する新歓企画実行委員会の運営によって毎年開催されているものです。構内に設置された、趣向を凝らしたサークル紹介の看板が雰囲気盛り上げ中、バンドステージや路上パフォーマンス、体験コーナーなどに多数の新入生が興味を示していました。



新入生でにぎわう学生センター前



サークル紹介の展示物などを楽しむ参加学生

◆ 永井路子先生から歴史資料の寄贈

歴史小説家、永井路子先生の本家（茨城県古河市）に伝わる古文書を茨城大学に寄贈していただきました。資料は、永井家の初代、八郎治が収集した江戸時代後期に広がった山岳信仰である不二講（ふじこう）に関するものです。

4月13日、本学学長室にて、永井路子先生から「永井家不二講資料」と目録を受領いたしました。続いて、池田学長から本家の永井伸様と永井路子先生へ感謝状を贈呈させていただきました。池田学長から「貴重な歴史資料をいただき、誠にありがとうございます。本学の研究、地域の研究に活用させていただきます。」とお礼のことばを述べると、永井路子先生から「このたび、茨城の熱心な郷土研究家、秋山高志先生を通じて、茨城大学へ先祖の資料を寄贈することになりました。庶民がどう生きたか。庶民の歴史資料を専門家の先生方に研究していただき、資料の命を吹き返していただきたい。」とご挨拶を賜りました。

茨城大学図書館では、資料を整理し、広く地域の方へ公開する準備を進めてまいります。



後列左より磯田人文学部准教授、小野寺図書館副館長、山本理事、秋山先生、松田理事（図書館長）前列左より永井伸様、永井路子先生、池田茨城大学長



資料を前にお話する永井路子先生（中央）

◆ 茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ 2009 を開催

茨城大学理学部では科学技術週間に呼応した事業として「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ」を毎年開催しています。4回目になる今年は、4月18日（土）に開催し、内容は特別講演と、理系4分野（物理、化学、生物、地球科学）において「実験体験講座」と「研究室公開」を行いました。

特別講演は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の坪井昌人教授による「超高解像力の天文学：ブラックホールは見えるか?」。数年後に打ち上げが予定されている人工衛星 ASTRO-G に搭載する電波望遠鏡で、うまくするとブラックホールの近くをはじめ撮像できるという、とてもロマン溢れる研究プロジェクトをわかりやすく紹介しました。実験体験講座は、「科学捜査で用いられる化学を体験しよう」「」など、参加者が目を輝かせながら体験できる実験が行われた。また、理学部の退職教員が立ち上げたベンチャー企業による「バイオ燃料電池」のデモ実験も行われました。

今年のサイエンステクノロジーフェスタでは、高校生を中心に、小学生、中学生、一般の方も含めて全体で約140名もの参加がありました。質の高い優れた科学技術系人材を育成するためには、次代を担う青少年が科学技術に親しむ機会を充実させることがとても重要です。大学においても、最新の科学技術に触れて、その技術が社会において実際にどのように役立っているかを具体的に肌で感じることができるイベントを継続的に開催していきたいと考えています。



「身近な道具で噴火体験」での実験の様子



大学院生のサポートで実験を体験する小学生

◆ 正門前に路線バスが乗り入れ

4年越しの交渉が実り、4月1日より茨城大学正門前にバス停が新設され、路線バスの水戸キャンパス乗り付けが実現しました。最寄駅から大学までのアクセスが便利になったと学生に好評を得ています。路線は、JR赤塚駅－茨大正門前ならびにJR水戸駅－茨大正門前を結ぶ3系統で、茨城交通バスが、通学時間帯にあわせて、特急バスを含め一日約70本を運行しています。

当初は、時間帯によっては最寄り駅での乗り継ぎが悪い場合もあったが、バス会社側の利用者の声を重視したダイヤ再編成などの迅速な対応により、ひと月経過した現在では、非常にスムーズな運行がなされております。

「より便利になって、非常に助かっている。毎日利用している。」と、利用者の評判も上々であるが、一方で、通学時間帯での混雑のため事故が起きないように、大学としては警備員などによる交通整理やHPなどで注意を促すなど対応を行っています。



正門前バス停の朝の風景

◆ 「水戸の城下町マップ」の完成報告会

茨城大学図書館では、財団法人水府明徳会と協力し「古地図と歩こう！水戸の城下町マップ」（以下、城下町マップ）を制作、平成21年5月14日、茨城大学にて完成報告会を行いました。

城下町マップは、茨城大学社会連携事業会支援事業の教員地域連携プロジェクト「歩いてみる『江戸時代の水戸』－教育と観光の活性化プロジェクト」の成果物であり、江戸時代の水戸城下絵図と現代の水戸市内の地図を重ね合わせたものです。

城下町マップの制作にあたり、水戸市、水戸市立博物館、茨城県弘道館事務所、茨城県立歴史館、幕末と明治の博物館、茨城県立図書館が所蔵する古地図や歴史資料からの情報を参考にしました。また、水戸商工会議所と共催で、城下町マップの試作版を使って水戸市内の歴史遺産を巡るタウンウォッチングを実施し、一般市民の方からも直接意見をいただきました。

図書館では完成した城下町マップを、小中学校の郷土の歴史を学ぶ教材として、また、地域の文化・観光の活性化のために活用してもらいたいと希望しています。新聞等で紹介され、多数の問い合わせがあり評判も上々です。



城下町マップの説明をする小野寺副館長

◆ 卒業生が講演会で後輩に就職指南

平成 21 年 5 月 27 日、茨城大学学生就職支援センター主催により「OB からのメッセージ『“茨城大学”だからこそ求める人材とは?』』と題し、同大卒業生の二馬康昌氏の講演が行われました。

二馬氏は 1980 年に人文学部社会科学科を卒業、現在は三菱電機ビルテクノサービス株式会社において人事部採用担当部長で、今期すでに 1100 人もの面接を終えたという、まさに現場の第一線で活躍されています。

今回、就職支援センターからの要望により、この就職難の中、母校において就職戦線に向かう後輩たちにエールを送るため、多忙の中、駆けつけられました。

講演に先立ち、大西和榮学生就職支援センター長から「これまで、学生就職支援センターは就職活動における実践的な面のガイダンスなどの企画が多かった。このたび、同窓生である二馬さんをお迎えし、『茨城大学だから』という話しも聞ける機会を設けられたことを大変うれしく思います」との挨拶がありました。

講演では、いま求められている人材や採用選考のポイントから、茨城大学に求められている人材についてまで、二馬氏の経験と実績による話がユーモアを交え語られました。

会場は予定人数を超えた学生が集まり、臨時席を設けたほか、日立、阿見キャンパスにも VCS（ヴァーチャル・キャンパス・システム）により、配信された。合計 200 人余りの学生が熱心に先輩のアドバイスに耳を傾けていました。



VCS による配信も行われ、200 人余りの学生が集まった



後輩に向け熱いメッセージを送る二馬氏

◆ 茨城大学「大学憲章」の制定と60周年記念シンポジウムの開催

平成21年5月30日、茨城大学創立60周年記念式典及び地域貢献シンポジウムが行われました。式典では、池田幸雄学長が創立60周年を記念し茨城大学憲章制定を披露し、「今後も地域に信頼される大学として頑張るとともに、新しい茨城大学として脱皮し、いっそうの発展を目指していきます」とあいさつしました。

また、来賓の橋本昌茨城県知事からは、「教育面とともに、学術研究にも力を発揮してもらいたい」と期待をこめた挨拶がありました。

式典後開催された「地域貢献シンポジウム」では、「市民・社会との連携が創り出す新たな教育と研究」をテーマに、先端科学最新成果の地域社会への普及・還元や地域と連携した環境保全・地球温暖化対策研究や地域連携活動の成果を大学関係者が発表するとともに、地域の自然・歴史・文化を生かした教育活動や地域の教育的課題解決への取り組みへの参画について、学生や連携団体からの発表もあり、地域に根ざした総合大学としての新たな大学創りの一歩にふさわしいシンポジウムとなりました。

参加者からは、「長時間でも内容が豊富で飽きることなく聴くことができた」「わかりやすい内容であった」などの感想を聞くことができました。



大学憲章を読み上げる池田幸雄学長



記念式典であいさつをする池田学長



橋本昌茨城県知事の祝辞



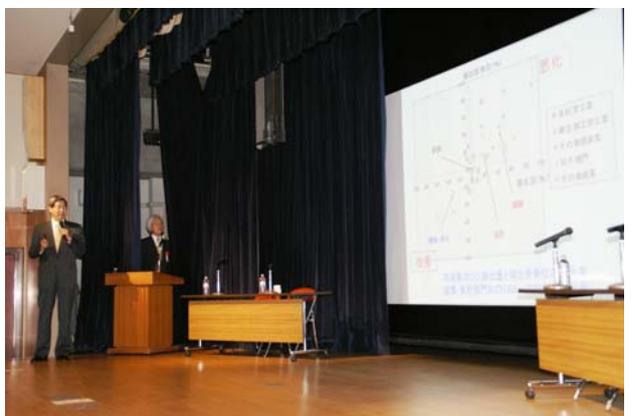
大学憲章にサインをする池田学長



フロンティア応用原子科学研究センター



産学官連携イノベーション創成機構



地球変動適応科学研究機関（ICAS）



茨城大学バイオ燃料プロジェクト（IBOS）



茨城大学地質情報活用プロジェクト



キャンパスエイド活動の取組み



ロビーでのパネル展示の様子